



但馬水産技術センターだより



漁況情報（G2131号）

令和3年10月29日
兵庫県立農林水産技術総合センター
但馬水産技術センター 発行

令和3年漁期 ズワイガニ漁況の見通しについて

調査船「たじま」の調査結果などから見た今期のズワイガニ漁況の見通しについて報告します。

1. 今漁期の見通し

解禁直後（但馬沖漁場）

解禁直後の但馬沖漁場での漁獲量（1隻当たり）は、オスがに（かたがに）が前年並み、メスがに（クロコ）が前年を上回るでしょう。

漁期全般（浜田沖～丹後沖漁場）

本県底びき漁船が漁期を通じて利用する浜田沖～丹後沖漁場全体におけるズワイガニ漁獲量は、オスがに、メスがにとも前年を下回るでしょう。

2. 根拠となった情報

解禁直後（但馬沖漁場）

調査船「たじま」によるズワイガニ漁期前調査（調査月：10月）

調査船「たじま」により、2021年10月11、18～19、22日に香住沖の水深200～350mおよび津居山沖、浜坂沖の水深235～245mに設けた計13定点（図1）においてトロール網（3ノット、30分曳き）による試験操業を実施しました。

オスがにには、香住沖の水深275m及び浜坂沖の水深245mでまとまった入網があり、1曳網当たりの入網数はメスがに漁場水深帯において過去5年平均を、全水深帯において前年および過去5年平均を上回る結果となりました（表1、表2）。メスがにには、津居山沖の水深240m、香住沖の水深235～245m、浜坂沖の235～245mにおいてまとまった入網があり、メスがに漁場水深帯、全水深帯ともに前年及び過去5年平均を大きく上回る結果となりました。昨年度調査にて多く確認されたアカコの生き残りが良く、それらがクロコになったことが原因として考えられます。なお、昨年度及び本年度調査で入網したズワイガニの甲幅組成は図2のとおりです。

漁期全般（浜田沖～丹後沖漁場）

水産研究・教育機構 水産資源研究センター底魚資源部調査（調査月：5～6月）

水産研究・教育機構 水産資源研究センター底魚資源部は、A海域（富山県以西）における2021年漁期当初の資源量をオスがに、メスがに、ミズがにとも前年を下回ると推定しています。その一方で、但馬沖漁場だけに限った結果ではオスがにが前年をわずかに上回り、メスがにが前年を大きく上回ると推定しており、当センターの調査結果の傾向と類似しています。

3. その他の情報

- 水深 225～235mにおいて、アカコが多く入網しました。11 月は再放流後の生残率が低いとされています（山崎ら 2011、2013）。アカコが多く混獲される海域で操業する場合、少しでも生き残りを増やすためにも迅速な再放流に努めてください。
- 2022 年以降に漁獲対象資源となる 10 歳以下の若齢個体が津居山沖の水深 240m、香住沖の水深 200 m及び 300～350mでオス、メスともに多く入網しました。若齢がにも同様に 11 月における再放流後の生残率が低いいため、それらが多く混獲される海域での操業は控えてください。
- アカガレイの 1 曳網当たりの入網重量はメスがに水深帯で前年及び過去 5 年平均を下回った一方で、全水深帯では前年、過去 5 年平均を上回りました（表 2）。
- 大型クラゲの入網量は前年を下回ったものの、過去 5 年平均は上回っているため、今後の推移に注意してください（表 2）。

以上、操業の参考にしてください。

お問い合わせ先：兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター（担当：田村・大谷）

TEL：0796-36-0395 FAX：0796-36-3684

E-mail：nouringc_tajima@pref.hyogo.lg.jp

HP：<http://hyogo-suigi.jp/tajima/>

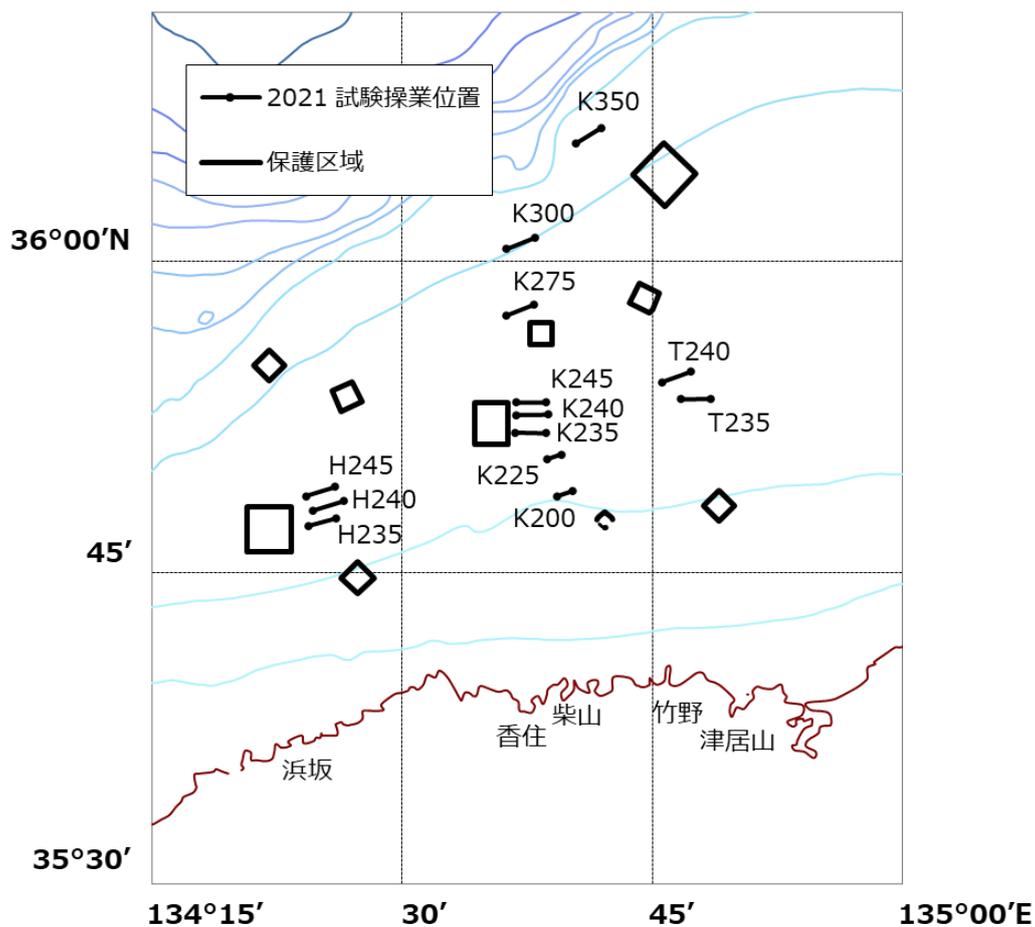


図1 但馬沖調査海域図

表1 漁場別のズワイガニ等入網状況

漁場	年月日	操業地点	曳網水深 (m)	ズワイガニ 入網数 (匹/網)			アカガレイ 入網重量 (kg/網)	大型クラゲ 入網重量 (kg/網)
				オス*1	ミズ*2	メス*3		
津居山・ 竹野沖	2021/10/22	T240	239 → 238	6	5	36	1.9	45.0
	"	T235	235 → 234	2	1	3	0.9	40.0
香住沖	2021/10/19	K350	345 → 346	1	20	0	9.5	70.0
	"	K300	302	1	53	0	10.1	23.0
	"	K275	277	15	4	0	64.6	105.0
	2021/10/18	K245	250 → 245	5	3	1	1.8	75.0
	"	K240	246 → 240	2	1	53	2.9	72.0
	"	K235	240 → 232	3	6	66	12.6	53.0
2021/10/19	K225*4	224	6	16	0	1.1	30.0	
	K200*4	203	0	40	0	15.4	12.0	
浜坂沖	2021/10/18	H245	246	22	3	473	0.9	70.0
	"	H240	241 → 240	4	0	167	4.1	34.0
	2021/10/11	H235	235 → 236	4	2	160	9.5	50.0

* 1 : かがたに (甲幅 94mm 以上、硬甲、ハサミ大)

* 2 : 11 齢 (甲幅 72~93.9mm) でハサミ小かつ脱皮前の個体

および 12 齢以上 (甲幅 94mm 以上) でかがたに以外の個体

* 3 : 漁期中にクロコになる個体 * 4 : 15 分曳き

表2 水深帯別 1 曳網当たり入網数と前年および過去 5 年平均との比較

水深帯	調査年	ズワイガニ 入網数 (匹/網)			アカガレイ 入網重量 (kg/網)	大型クラゲ 入網重量 (kg/網)
		オス* ¹	ミス* ²	メス* ³		
メスかに漁場水深帯* ⁴ (235~250m平均)	過去5年平均	4.5	2.0	35.4	5.9	33.8
	2020年	6.9	4.4	27.1	5.7	112.5
	2021年	6.0	2.6	119.9	4.3	54.9
全水深帯 (200~350m平均)	過去5年平均	2.3	19.5	6.0	10.9	20.7
	2020年	2.6	18.0	4.5	8.2	78.1
	2021年	4.8	22.6	20.0	17.5	49.1

* 1 : かたがに (甲幅 94mm 以上、硬甲、ハサミ大)

* 2 : 11 齢 (甲幅 72~93.9mm) でハサミ小かつ脱皮前の個体
および 12 齢以上 (甲幅 94mm 以上) でかたがに以外の個体

* 3 : 漁期中にクロコになる個体

* 4 : メスが集中分布する水深帯で解禁直後の主漁場となる

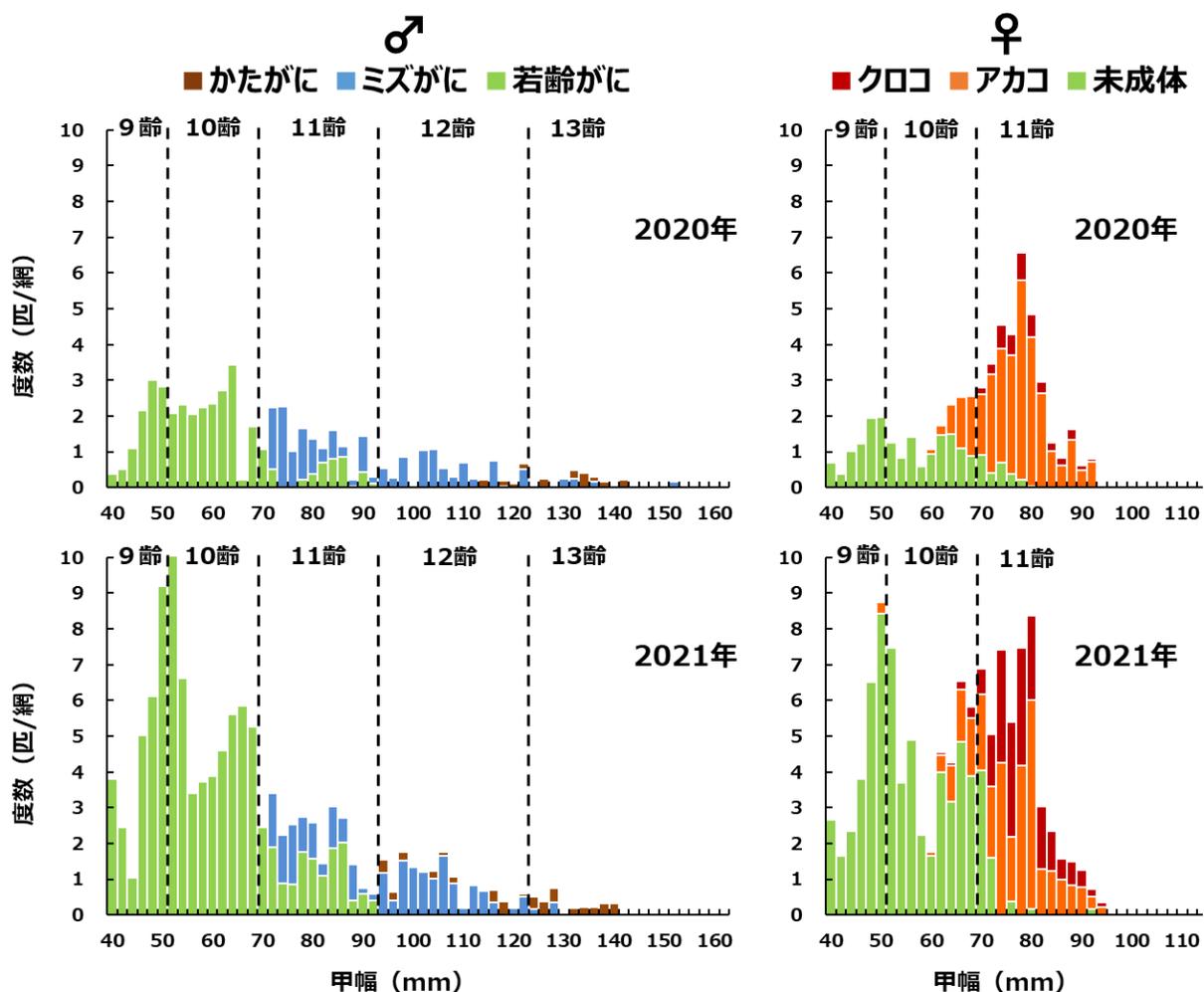


図2 2020、2021 年のズワイガニ漁期前調査で入網したズワイガニの甲幅組成

(10 月、但馬沖全水深帯、1 曳網当たり)

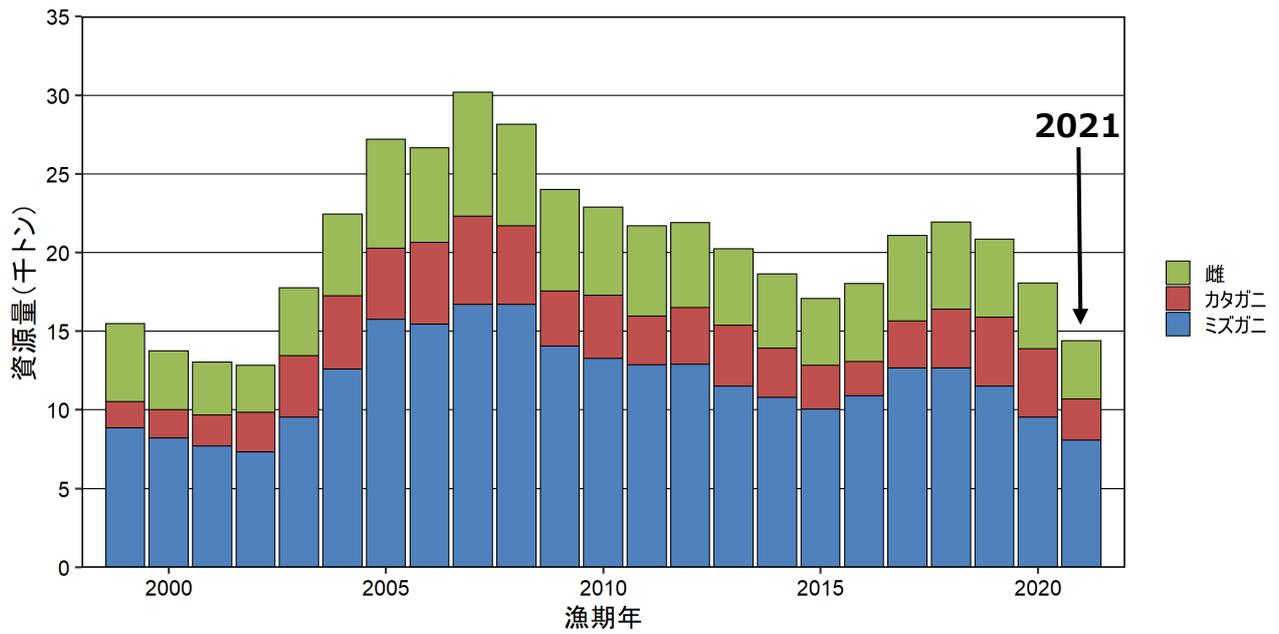


図3 日本海 A 海域（富山県以西）における推定漁獲対象資源量

（水産研究・教育機構 水産資源研究センター底魚資源部 作成資料より）